

第41回 北海道ジュニア体操競技選手権大会審判員報告

苫小牧地区・十勝地区合同主催の第41回北海道ジュニア体操競技選手権大会が北海道立野幌総合運動公園体育館にて2018年11月16日(金)～18日(日)に開催されました。

今年度ルールの変更のあったAクラスに絞って各種目D1審判員を中心に審判員報告を作成致しました。

来年度も同じ適用規則が採用となりますので、参考にしていただきたいと考えております。

男子Aクラス 種目【 ゆか 】

審判 D1【 吉田 光国 】

【Aクラス】

・演技構成について

Dスコアが全体平均として3.5～3.8で4.0を超えた選手は2名のみだった。高難度のタンブリングとしてD難度は、後方かかえ込み2回宙返り1回ひねり1名、前方伸身宙返り2回ひねり3名、後方伸身宙返り3回ひねり2名、後方宙返り5/2ひねり3名。C難度は、後方かかえ込み2回宙返り3名であった。

・実施・加点について

宙返り等の高さ、着地等での減点が多く見られた。組み合わせ加点はなかった。その他、安定した着地や高難度の技、演技全体に対して加点をおこなった。

・NDについて

技数不足、タイム減点等は見られなかった。ライン減点は3名で、3演技とも宙返りの連続技でのラインオーバーであった。種目特有の特別に要求されている倒立静止と前後(左右)開脚座はほとんどの選手が実施していた。

・スモールaについて

全選手の演技が技数充足しており、スモールaを難度に組み込むことはなかった。

【アップ時間について】

特に問題なし。

【その他】

組み合わせ加点にはなかったが、C難度以下の宙返り連続は多く見受けられ

た。また、U-15 ではNDの対象にはならないが2回宙返りも4名ほど実施していた。「美しい体操」を目指しながらも高難度の技や組み合わせ加点につながるような宙返り連続等や2回宙返りを実施できるように頑張ってもらいたい。

男子Aクラス 種目【あん馬】

審判 D1【澤田 雄介】

1 審判会議で確認したこと

(1) Dスコアの算出について

(2) 減点に関する内容と採点指針

U-15ということで今後の北海道体操を背負う少年を育成するための指針として特に、

- ・旋回の質について（特に腰の伸び、スピード）
- ・縦向きでの技については、その角度の正しさ
- ・片足振動における足先と腰の高さ（技以外の部分での単純な足入れ・足抜きの高さも減点対象になること）
- ・下向き転向系での下り技での角度について

を確認し、これらから今大会評価していく演技は、

- ・高いDスコアを有する演技
- ・旋回において足先まで神経がいきとどき、よく腰が伸びたその旋回を十分に生かして技が実施されていく雄大で美しい演技
- ・片足振動技において美しさと雄大さを兼ね備えているもの

と確認をした。

2 講評

【Dスコア分布】

3.2	3.1	3.0	2.9
3名	1名	1名	1名
2.8	2.7	2.6	2.5
1名	3名	7名	4名

Dスコアを積極的に高めようとする選手たちは、B難度以上の技を演技構成に組み込み実施していた。参考までに実施されたB難度以上の技は下記の通りである。

B難度	下向き転向	シュテクリB	一把手上縦向き旋回
	シュテクリA	旋回倒立下り	縦向き後ろ移動 (2/3部分)

	縦向き前移動 (2 / 3 部分)	縦向き前移動 1 / 4 ひねり	
C 難度	旋回倒立 3 部分移動 下り	縦向き前移動 (馬端～把手～把手 ～馬端)	シュテクリ倒立下り
D 難度	旋回背面とび横移動倒立 3 部分移動 下り		

【Eスコア分布】

8.45	8.3	8.25	8.2	8.15	8.05	7.9
1名						
7.75	7.6	7.55	7.5	7.3	7.1	7.05
1名	2名	1名	1名	1名	1名	1名
6.85	6.55	6.4	6.35	6.1		
1名	1名	1名	2名	1名		

【減点箇所とその傾向】

- 終末技の下向き転向下りで角度による 0.3 の減点を伴う実施がほとんどだった。
- 交差技や交差技以外の片足振動においても大きさのない実施は減点 (0.1～0.3) となる。これに抵触するものが多く見受けられた。
- 特に馬端中向き旋回において角度の逸脱 (0.1～0.3 の減点)、腰が折れる (0.1～0.3 の減点) などが見受けられ、両方に該当する実施も見受けられた。
- 倒立での終末技については力の使用や、腕の曲がり、足先の下がりが見受けられ合計で 0.3～0.6 もしくはそれ以上の減点を受けてしまうものもいた。
- 演技を通じて旋回の大きさや腰の曲がり、馬体へ足先が触れてしまう演技も見受けられた。

【今後について】

- 旋回の質を高め、腰を伸ばし、スピードある旋回で演技を実施して欲しい。
- 交差技以外での片足振動も減点の対象となってしまうので単純な片足の入れ・抜きも注意して取り組んで欲しい。
- 縦向きでの技における角度逸脱について、ジュニア期より正しい向きで行えるよう取り組んで欲しい。
- 基本的にグループⅡ、Ⅲの技は違う技につなげなければ技の成立を認められないが、それに抵触して不認定となる技については見受けられなかった。新しいルールや情報もしっかり浸透していることを感じた。

【Aクラス】

・演技構成について

演技者 22 名（1 名棄権者）

→C 難度以上の技の実施について

ヤマワキ・・・・・・・・・・ 6 名

（前・後）方車輪倒立・・・・ 10 名（うち 2 名不認定）

→グループⅢについて

け上がり脚前拳支持・・・・・・・・ 1 名

→終末技について

後方宙返り下り（A）・・・・・・・・ 4 名

後方抱え込み 2 回宙返り（B）・・・・ 14 名（うち転倒 5 名）

後方抱え込み 2 回宙返り 1 回ひねり（C）・・・・ 4 名

→D スコアについて（3.0 以上）

3.3・・・・・・・・ 2 名

3.2・・・・・・・・ 1 名

3.1・・・・・・・・ 1 名

3.0・・・・・・・・ 1 名

（平均 2.8）※少数第 2 四捨五入

→E スコアについて（7.5 以上）

8.00～8.15・・・・ 2 名

7.95～7.80・・・・ 5 名

7.75～7.50・・・・ 7 名

（平均 7.3）※少数第 2 四捨五入

○最高得点者

11.15（D 3.3 ・ E 7.85）

・実施・加点について

全体的には、D スコアでの差はあまりつかず、E スコア勝負といった印象を持ちました。そういった中、つり輪は選手の発達段階や種目の特性上なかなか E スコアが伸びない種目ではありますが、基本的な部分での減点をもっと少なくできるのではないかと感じました。例えば『クーゲル』『ディスロー』の大きさ、『脚前拳支持』での腕によるリングタッチ、静止不足などです。また、つり輪特有の減点として『後ろ振りあがり支持』『逆上がり支持』などでの肘曲がりの減点も多く見られました。中には技以外の部分、演技開始での逆懸垂に持ち込む際や、倒立からの逆懸垂に持ち込む際の肘曲がりなど、すぐに改善できそうな実施もありもったいなく感じました。細かい部分ではありますが、美しい体操を目指し、頑張ってもらいたいと感じました。

一方で、後方車輪を実施する選手のほぼ全員が肘のゆるみなどで 0.3 以上の

減点を伴いましたが、実施したことに対して評価いたしました。

また、着地について転倒が5名（いずれも2回宙返り）ととても多く、逆に着地が止まった7名のうち3名はA難度の宙返りでした。着地減点が厳しくなる中、ジュニアの時期からもっと重要視して取り組んでほしいと感じました。

・NDについて

倒立が不認定になったことにより0.3のND発生・・・3名

・スモールaについて

肩倒立をスモールaとして認定・・・1名

・難度認定について

後ろ振りあがり上水平支持や伸腕屈伸力倒立、け上がり脚前拳支持において『姿勢の大欠点』や『停止なし』として不認定となるケースが6演技ありました。具体的に姿勢では腰の角度、上体の角度、肘曲がり角度など、静止では身体が揺れることなくしっかりと止めるといった部分でした。

男子Aクラス 種目【 跳馬 】

審判 D1【 野澤 周 】

【Aクラス】

・演技構成について

Dスコア	4.0	4名	グループⅠ	6名
	3.6	1名	グループⅡ	16名
	3.2	5名	グループⅢ	1名
	2.8	10名		
	2.4	2名		
	2.0	1名		

・実施・加点について

着地が止まった選手は3名でした。

・NDについて

ライン減点があった選手は2名でした。（いずれも0.1の減点）

【アップ時間について】

問題なし

【その他】

屈伸、伸身の曖昧な姿勢が練習段階で気になった選手が一人いましたが、本番の演技では伸身姿勢を見せてくれたので、伸身で取りました。これからは姿勢については明確に区別した実施を期待しています。

男子Aクラス 種目【 平行棒 】

審判 D1【 菅戸 秀俊 】

【Aクラス】

・演技構成について

3. 5・・・3人 2. 9・・・2人 1. 9～・・・1人
3. 4・・・1人 2. 8・・・4人
3. 2・・・1人 2. 6・・・5人
3. 1・・・3人 2. 5～2. 0・・・2人

・実施・加点について

D難度の技・・・ 3人（チップルト・棒下倒立）

C難度の技・・・ 14人（ツイスト・ディアミドフ・モイ・車輪・抱え込みダブル）

着地を止める・・・ 5人 にそれぞれ加点をした。

・NDについて

なし

・スモールaについて

なし

・難度認定（つり輪・平行棒・鉄棒）について

前振りひねり倒立45°未満・・・ 3人

前方かかえ込み宙返り下り・・・ 1人

後方かかえ込み宙返り下り・・・ 11人

【平行棒アップ時間1人50秒（団体200秒）について】

団体は3名班が多く、遅延は見られなかった。個人もほぼ50秒で終了しており、特に問題なし。

【その他】

静止時間の不足している演技が少なかったのは良かった。

手のずらし、前振り上がりや支持振動系での膝曲がりによる減点が多かったので癖にならぬよう取り組んでほしい。

男子Aクラス 種目【 鉄棒 】

審判 D1【 松林 貢司 】

【クラス】

・演技構成について

ルールが変わり、ほとんどの選手がひねり系の技を実施しない傾向が見られた。シュタルダーやエンドーのみDスコアも2.3~2.8の選手がほとんどであった。3.0を超える選手は5名で、積極的にシュタルダーひねりやエンドー

ひねり等を実施し、B難度以上の終末技にトライしていた。その中でも2名の選手はD難度の伸身ムーンサルトを実施し、着地までまとめていた。最高Dスコアは3.3だった。

・実施・加点について

落下や転倒も少なく、多くの選手が演技をまとめていた。ツイストや移行の終末姿勢で倒立位ではなく流れてしまう選手も非常に多かった。今後は、難度の低い技を実施する際にも、姿勢や角度まで気を使って実施してほしい。

加点については、着地を止めた10名の選手に加点を与えた。最高Eスコアは8.55だった。

・NDについて

今回、NDの対象となる選手は0名で、全選手が5技以上を揃えていた。

・スモールaについて

スモールaを実施した選手は3名だった。そのうち1名は5技で構成されていたので、スモールaがなければNDとなっていた。

・難度認定について

難度認定については実施した技を全て認定し、実施減点とした。足裏支持回転倒立を実施した選手が数名いたが、倒立に上がらず水平以下になってしまった選手も認定し、減点で対処した。

【アップ時間について】

アップ時間は選手、コーチ共にしっかり守っていた。

【その他】

減点項目や減点が厳しくされるルールになり、高難度技をする選手が減っている印象を受けた。簡単な技でも厳しく減点されてしまうので、今後は基本技術にも磨きをかけていくことで、その基本技術の向上が、高難度技への発展にもつながってくると思う。全国のジュニア選手のレベルアップに北海道もついていき、そして引っ張っていくためにも、手放し技やアドラー系の技を取り入れていきDスコアを上げて行ってほしい。そして厳しいルールの中でも果敢に高難度技へ挑戦してきた選手は今後も高く評価していくべきであると思う。

以上